

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会記録

1 会議の日時	<p style="text-align: center;">開 会 午前 10時 00分 平成30年12月19日 閉 会 午前 11時 43分</p>	
2 会議の場所	<p style="text-align: center;">厚生環境委員会室</p>	
3 出席者	委員	<p style="text-align: center;">委員長 駒 田 誠                      副委員長 平 岩 正 光 松 村 多美夫              伊 藤 秀 光              脇 坂 洋 二 篠 田 徹                      野 村 美 穂              酒 向 薫 山 田 実 三                      澄 川 寿 之</p>
	執行部等	<p style="text-align: center;">別紙配席図のとおり</p>
4 事務局職員	<p style="text-align: center;">係長 古野 直美                      主事 岩島 由里奈</p>	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	<p>これからの健康・医療・福祉対策に関すること</p> <p>○参考人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 事業部門 地域福祉担当統括課長 奥村 昭 氏</li> <li>・ 社会福祉法人高山市社会福祉協議会 会長 西永 由典 氏</li> </ul>	
2	その他	

## 6 議事録(要点筆記)

### ○駒田 誠委員長

ただいまから、これからの健康・医療・福祉対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、「人口減少社会における福祉・生活支援のあり方について(特に中山間地域について)」、御協議いただくため、開催したものである。

本日は、社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会、事業部門地域福祉担当統括課長の奥村 昭氏と、社会福祉法人高山市社会福祉協議会会長の西永由典氏を参考人としてお招きしている。

奥村氏は、大学卒業後に重症心身障害児施設にて児童指導員を経たのち、現在まで滋賀県社会福祉協議会にて福祉の実践に尽力されているほか、社会福祉士として、滋賀県及び日本社会福祉士会の結成に携われ、滋賀県社会福祉士会の副会長として、地域の社会福祉全体を支えておられる。

西永氏は、大学卒業後に高山市役所に入職し地方行政に30年余り勤められ、平成16年までの8年間、収入役として、市の行財政をつかさどってこられた。その後、平成17年より現職として、日本一面積の広い高山市で、「笑顔あふれる福祉のまち」のため地域の社会福祉全体を支えておられる。

本日の進行は次第にしたがって、貴重な話をさせていただく。活発な意見交換をお願いしたい。

質疑については報告終了後に、また、執行部職員の出席については、関係部局を中心に出席いただいているので、あらかじめ御了承願いたい。

(参考人 奥村 昭氏 説明)

### ○駒田 誠委員長

ただいまの説明に対し、質疑はあるか。

### ○平岩正光副委員長

滋賀の縁創造実践センターでは基金を約1億円集められ、様々な有償の事業を行っているが、これまで滋賀県はどのような支援、関与を行ったのか。

### ○奥村参考人

この事業は5年後の成果目標を立てて5年間限定としている。滋賀県と公私協同連携協定を結び、協定に基づいて基金へ初年度に5年間分として2,800万円を出していただいたほか、県社協から5,400万円、老人施設協議会からも3,800万円出していただいた。また、滋賀県からは、それ以外にも事務局の嘱託職員の人件費300万円を5年間出していただいた。

今後、改めて基金を積み増すことはなかなか難しいと思うが、5年間、一緒にやってきたため、パートナーシップは続けていきたい。また、協定の延長については実務的な協議をしていく予定である。

### ○伊藤秀光委員

医療的ケアの必要な重度障がい者への入浴支援により、週に何回くらい入浴できるようになったのか。

○奥村参考人

この支援により、少なくとも週1回、入浴回数を増やせることになったことで、週2，3回は入浴できるようになった。

○伊藤秀光委員

入浴支援に対するヘルパーや介護福祉士などのマンパワーも整っているということか。

○奥村参考人

マンパワーの確保には大変苦労した。訪問看護ステーションやホームヘルパーの方に協力してもらい、かなり丁寧にやらせていただいたが、その分のコストを基金から出し、モデル事業として実施した。通常、看護師に来ていただくと1回1万円以上の人件費がかかる。

○伊藤秀光委員

受益者の負担は。

○奥村参考人

モデル事業であり、受益者の負担はない。

○野村美穂委員

今回の事業とSDGs（エスディージーズ）との関連や結び付けがあれば教えてほしい。

○奥村参考人

縁創造実践センターそのものがSDGsに基づいて運営しているということはないが、予算要求についてはSDGsの目標に則して整理を行っている。

○平岩正光副委員長

「滋賀の縁認証事業」に認証された団体へ県が直接、金銭的な支援をしていたのか。また、今後どのようにかかわっていくのか教えて頂きたい。

○奥村参考人

本事業は、要件を満たした活動を行う団体、施設・事業所等を「滋賀の縁」として認証するものであり、認証されたことに伴う財政的な支援はない。

滋賀県では過去に、「あったかホームづくり」という県単の助成事業を実施しており、地域との交流など目的とした事業所が行う「共生の場として育む事業」が認証されたケースがある。

認証された事業を発展させるための助言等が我々の役割だと考えている。

○駒田 誠委員長

ほかに意見はないか。

(発言する者なし)

○駒田 誠委員長

御意見も尽きたようなので、次に、西永参考人、よろしくお願ひしたい。

(参考人 西永由典氏 説明)

○駒田 誠委員長

ただいまの説明に対し、質疑はあるか。

○松村多美夫委員

この事業は高山市社会福祉協議会の事業として取り組んでいるのか、「のくとい館」の支援として行っているのか。

○西永参考人

高山市社会福祉協議会の事業として「のくとい館」を運営している。そのため維持修繕費も社会福祉協議会で負担している。

○松村多美夫委員

このような地域は高根だけでなく他にもあると思うが、そういった地域で手が上げられるようなことはあるのか。

○西永参考人

今年はそのような事例は無い。昨年朝日から一人、3年ほど前には荘川から一人、「のくとい館」に入居された方がみえた。地域に「のくとい館」のような施設が欲しいという声があれば行政と共同でやっていかないといけないと考えている。

○松村多美夫委員

地元の中で運営のリーダーとなるような人がいるのか。

○西永参考人

社協の職員とまかないの方が中心となって、食事の準備や地域の協力を得るなどして活動を行っている。まかないの方は「のくとい館」の近くに住む民生委員の方である。

○駒田 誠委員長

ほかに御意見はないか。

○西永参考人

高山市社会福祉協議会は、県内の社協では少数派の、介護保険事業を持たない地域福祉事業中心の団体である。今後も高根の事業では、(入居の) 元気な高齢者に作業等を任せながら地域のリーダーとともに運営していきたい。

○駒田 誠委員長

ほかに御意見はないか、また執行部の方は何かないか。

(発言する者なし)

○駒田 誠委員長

それでは、一点連絡する。

当委員会の視察につき、来年1月16日に、県外視察を計画しており、滋賀県方面へ参る予定である。行程等、詳細について、追って知らせる。

それでは、これをもって、本日の委員会を閉会する。

奥村参考人、西永参考人へあらためて御礼を申し上げる。

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会  
委員長

